

Sun Ray Software
リリース 5.4.x 用リリースノート

ORACLE

E47871-02
2013 年 11 月

Sun Ray Software: リリース 5.4.x 用リリースノート

Copyright (C) 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

Oracle Virtual Desktop Client ソフトウェアは、Oracle Software Delivery Cloud (<https://edelivery.oracle.com>) から個別にダウンロードする必要のある Oracle の Sun Ray Software および Oracle Virtual Desktop Infrastructure ソフトウェア製品に含まれているコンポーネントです。Oracle Virtual Desktop Client の使用は、Sun Ray Software および Oracle Virtual Desktop Infrastructure に付属するかそれらに適用される Oracle ソフトウェアライセンス契約に従います。

概要

このドキュメントでは、Sun Ray Software 5.4.x リリースの新機能、変更点、および既知の問題について説明します。

ドキュメント生成日: 2013-12-19 (revision: 2580)

目次

はじめに	v
1 Sun Ray Software の新機能	1
1.1 リリース 5.4.2	1
1.2 リリース 5.4.1	2
2 既知の問題	5
2.1 パフォーマンスの更新	5
2.2 欠落したセッションの防止 (Oracle Linux)	6
2.3 IPsec でのパフォーマンス	6
2.4 インストールの問題	6
2.4.1 アップグレード後に DHCP サービスが再起動されない	6
2.4.2 アップグレード中に utpreserv が utwc (Windows Connector) グループを復元しない	7
2.5 管理 GUI の問題	7
2.5.1 自己登録 GUI	7
2.5.2 複数認証 (Oracle Solaris)	7
2.6 セッションの問題	7
2.6.1 IPv6 を使用する際にセッションアクセスが非常に遅い (Oracle Solaris 11)	7
2.7 ログインの問題	7
2.7.1 タブレットの回転後、ログイングリタが中央に配置されない	7
2.7.2 「クイックログイン」メニューが NSCM ログイングリタで動作しない (Oracle Solaris 11)	8
2.7.3 dtlogin 画面でリストからホストを選択するオプションからリモートホスト名を選択する と、Sun Ray クライアントが 26D でハンガアップする	8
2.8 画面の問題	8
2.8.1 モニターが DVI-2 に接続されているときに、Sun Ray セッションがデフォルト表示である 640 x 480 を使用する	8
2.8.2 動的なセッションサイズ変更が有効になっているときにホットデスク後 GNOME がクラッ シュする場合がある (Oracle Linux 5)	8
2.8.3 Sun Ray 3 および Sun Ray 3i クライアントで構成 GUI を表示しているときに画面がちらつく	8
2.8.4 2 つ目の Oracle Linux セッションで画面がロックしない	8
2.9 マルチメディアの問題	9
2.9.1 H.264 ビデオを再生中の Windows Media Player を閉じると、Windows セッションがクラッ シュする場合がある (Oracle Solaris)	9
2.9.2 Windows Media Player でビデオを再生しているときにデスクトップをリフレッシュする と、Windows デスクトップ背景が黒くなる場合がある	9
2.9.3 ビデオサイズを小さくすると、以前に設定した大きなビデオサイズのイメージ内でビデオ再生 が開始される	9
2.9.4 RealPlayer レンダリング (Oracle Solaris)	9
2.9.5 2 つの画面から 1 つの画面にホットデスクするときのビデオイメージの問題	9
2.9.6 XVideo を使用した縮小	10
2.9.7 VC-1 (WMV9) ビデオを Windows Media Player ではじめて再生しようとする、再生されな い場合がある	10
2.9.8 RealPlayer で最大化した XVideo のプレイバックが遅い	10
2.10 キーボードの問題	10
2.10.1 xset led が有効になっているとき、キーボードのプラス (「+」) 記号が動作しない (Oracle Solaris 11)	10
2.10.2 NumLock がオンになっているとき、Shift-Props および Shift-Pause ホットキーが動作しない (Oracle Solaris 11 および Oracle Linux 6)	10
2.10.3 XKB (Oracle Linux)	10
2.10.4 テンキーマッピング (Oracle Linux)	10
2.10.5 キーボードの配列 (Oracle Linux)	11
2.11 キオスクの問題	11
2.11.1 キオスクアプリケーションタイプを正しく設定する	11
2.12 外部ストレージの問題	11
2.12.1 Memorex TravelDrive 1G バイト が Sun Ray 2FS クライアント上で動作しない	11
2.13 Oracle Solaris Trusted Extensions の問題	11
2.13.1 admin_high/admin_low 許可のないユーザーがログインに失敗する (Oracle Solaris 11)	11
2.13.2 Sun Ray 相互接続構成	11
2.13.3 マルチヘッド役割引き受け	12

2.13.4	フラッシュディスクの割り当て	12
2.13.5	複数のスライス/パーティション	12
2.13.6	xscreensaver リンク (Oracle Solaris 10)	12
2.14	ローカリゼーションの問題	12
2.14.1	ポルトガル語のロケールがインストールされない (Oracle Solaris 10 および Oracle Linux)	12
2.14.2	nl_NL オランダ語ロケールサポートがデフォルトで提供されない (Oracle Solaris 11)	12
2.14.3	utselect GUI でローカライズされたテキストが正しく表示されない (Oracle Solaris 11)	13
2.14.4	utselect および utwall (Oracle Linux)	13
2.15	VMware View Connector の問題	13
2.15.1	ネットワークレベル認証 (NLA) を使用して Windows 7 を起動すると VDM ログイン画面で認証に失敗する	13
2.16	スマートカードの問題	13
2.16.1	Sun Ray Operating Software のインストール時にスマートカード LED が約 40 秒間点滅する	13
2.17	Windows Connector の問題	14
2.17.1	ホットデスク中に Windows Server 2003 R2 デスクトップが自動的にサイズ変更されるとセグメント例外が発生する	14
2.17.2	USB リダイレクション機能のトラブルシューティングに使用される uttrace コマンドが機能しない	14
2.17.3	Windows 7 および Windows Server 2008 R2 システムへの接続時に、Windows Connector が Windows 開始画面でハングアップする場合がある	14
2.17.4	Windows 7 でテーマが有効になっているときに色勾配が正しく表示されない	14
2.17.5	XRender が無効のときに Windows Server 2008 R2 セッションで黒いマウスカーソルが表示される	14
2.17.6	スキャナボタンを使用してもスキャンが動作しない	15
2.17.7	フラッシュディスクの挿入後にエクスプローラウィンドウが自動的に起動しない	15
2.17.8	スマートカードが Windows ターミナルサーバーでユーザーを認証できない	15
2.17.9	既知の Oracle Linux 制限が原因で、Windows から PCFS フォーマットリムーバブルメディアへの大きなファイルのコピーが機能しない	15
3	フィードバックとサポート	17

はじめに

このドキュメントでは、Sun Ray Software 5.4.x 製品について説明します。

対象読者

このドキュメントは、システム管理の経験を持つユーザーを対象にしています。また、読者が Web テクノロジーの知識を豊富に持ち、Windows および UNIX プラットフォームの一般的な知識を持っていることを前提としています。

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティへの取り組みについては、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> にアクセスしてください。

関連ドキュメント

この製品のドキュメントの完全なセットについては、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/jp/server-storage/sunrayproducts/docs>

ドキュメントセットには、次のドキュメントが含まれています。

- Sun Ray Software 管理ガイド
- Sun Ray Software リリースノート
- Sun Ray Software のセキュリティーガイド
- Sun Ray Software 用 Oracle Enterprise Manager システムモニタリングプラグインインストールガイド

表記規則

このドキュメントでは次の表記規則を使用します:

表記規則	意味
太字	太字は、操作に関連するグラフィカルユーザーインターフェース要素、または本文中や用語集に定義されている用語を示します。
イタリック	イタリックは、本のタイトルや強調、ユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
モノスペース	モノスペースは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。

第1章 Sun Ray Software の新機能

この章では、各 Sun Ray Software リリースの新機能について説明します。

1.1 リリース 5.4.2

このセクションでは、Sun Ray Software 5.4.2 リリースの新機能について説明します。

新機能

次に、このリリースの新機能を示します。

- Oracle Linux 6 Update 4 のサポート

Oracle Linux 6 Update 4 (64 ビット) がサポートされるインストールプラットフォームです。

- VMware View 5.2 のサポート

VMware View 5.2 が VMware View Connector でサポートされるプラットフォームです。

Sun Ray Operating Software 11.1.3

Sun Ray クライアントの Sun Ray Operating Software 11.1.3 は、Sun Ray Software 5.4.2 と同時にリリースされており、重要なバグ修正を含んでいます。

最新のすべての Sun Ray Software 機能を活用し、最適なユーザーエクスペリエンスを実現するには、常に Sun Ray クライアントに最新の Sun Ray Operating Software をインストールしてください。詳細は、[Sun Ray Operating Software のドキュメント](#)を参照してください。

システム要件

Sun Ray サーバーおよび Windows リモートデスクトップサポートのオペレーティングシステム要件を含めて、システム要件については管理ガイドの[Product Requirements](#)を参照してください。

修正されたバグ

次の表に、Sun Ray Software 5.4.2 で修正されたバグを示します。

表1.1 Sun Ray Software 5.4.2 で修正されたバグ

バグ ID	説明
15988988	utaction プロセスが、pcscd の終了後に残った pcscd に属する
16103053	ユーザーに、スマートカードを使用してログインしたほかのユーザーからの証明書が表示される
16683003	「ハンジャ」変換が Oracle vdi 3.5 内のどの dtu から機能しない
16808821	esc: -h autoreconnect を使用して srs 5.4 でホットデスクするとオーディオが失敗する
16923415	linux コンソール経由で描画されたカード yuv の挿入
16935056	dac_lockdown_on_fail パラメータを pc/sc-lite に追加
17007274	タイムアウト値の後に PIN ログインが正しく表示されない
17014132	rdp 接続を 5 回連続で試行したあとで uttsc がクラッシュする
17032040	/etc/smartcard/pcscd-sunray.conf 内の \$sun_libusb_follow_session kvp を修正する必要がある
17218229	5 番目の uttsc セッションでオーディオ/ビデオを再生しようとするときセグメント例外が発生する
17278694	esc: 一部の motif アプリケーションフォントが srs 5.4 で正しく表示されない

バグ ID	説明
17323240	esc: ログイン試行が何回か失敗した後の utauthd コア
17346060	esc: モニターのウェイクアップイベント後にオーディオの再開が失敗する
17647197	linux 上の srs 5.4.x で utpresave が壊れている

1.2 リリース 5.4.1

この章では、Sun Ray Software 5.4.1 リリースの新機能について説明します。

新機能

このリリースでは次の新機能が追加されました。

- スマートカードリーダー用のアクセス管理

前の Sun Ray Software リリースでは、すべてのユーザーが Sun Ray クライアントに接続されたスマートカードリーダーを使用でき、ユーザーごとにアクセスを制限する方法はありませんでした。Sun Ray Software では、`utdevpolicy` コマンドを使用してデバイスのアクセスポリシーを構成できるようになりました。このリリースでは、Sun Ray サーバーで構成されたゾーンに基づいてスマートカードリーダーへのユーザーアクセスを構成できます。具体的には、どのスマートカードリーダーがどのゾーンでアクセス可能かを構成できます。

この機能は、Oracle Solaris Trusted Extensions が実行されている Sun Ray サーバー上で、Sun Ray クライアントに接続されている内蔵または外付けのスマートカードリーダーでのみ使用可能です。詳細については、管理ガイドの [Configuring Access to Smart Card Readers](#) を参照してください。

Sun Ray Operating Software 11.1.2

Sun Ray クライアントの Sun Ray Operating Software 11.1.2 は、Sun Ray Software 5.4.1 と同時にリリースされており、重要なバグ修正を含んでいます。

最新のすべての Sun Ray Software 機能を活用し、最適なユーザーエクスペリエンスを実現するには、常に Sun Ray クライアントに最新の Sun Ray Operating Software をインストールしてください。詳細は、[Sun Ray Operating Software のドキュメント](#) を参照してください。

システム要件

Sun Ray サーバーおよび Windows リモートデスクトップサポートのオペレーティングシステム要件を含めて、システム要件については管理ガイドの [Product Requirements](#) を参照してください。

修正されたバグ

次の表に、Sun Ray Software 5.4.1 で修正されたバグを示します。

表1.2 Sun Ray Software 5.4.1 で修正されたバグ

バグ ID	説明
12140982	すべてのユーザーが読み取ることができるわけではないディレクトリに <code>utadmin.pw</code> を移動
14652867	esc - スマートカードを使用しない場合でも <code>ovdc</code> によるスマートカードの検索に 2 分かかる
14710539	usb ストレージスティックが <code>ubuntu</code> デスクトップのマウントに失敗する
14848587	<code>sgd 4.70</code> にアップグレードしたあとに、 <code>windows</code> デスクトップで画面再描画の問題が発生する
15916226	基礎となるウィンドウからの <code>xnewt x11</code> ウィンドウの破損
15931580	考えられるキーストアの脆弱性
16356330	activclient ユーティリティを <code>tx11</code> で起動すると <code>uttsc</code> が <code>xwarppointer</code> で終了する
16545492	<code>libutsc update_cached_reader</code> でのメモリー破損

修正されたバグ

バグ ID	説明
16600934	xnewt プロセスがループ状態になり、cpu を 100% 使用してセッションがハングアップする
16659733	外付けスマートカードリーダーをホットプラグすると pcscd がクラッシュする
16708705	パッケージ sunwuti のバージョンが srs 5.2.6 で誤って表示される
16731373	uttsc マウントされたデバイスでウィンドウドキュメントを保存できない
16745695	jre バージョン 6u45 のバンドル
16866914	スマートカードのリダイレクションモードにより pcscd の破損したパイプエラーが発生し、システムに過大な負荷がかかる
16921452	libusb が svclib 切り離しコールバックと usb_close() の間で同期しない
16932625	nscm のログイン時にスクリーンセーバーが dtu モニターを正しく消さない

第2章 既知の問題

ここでは、最新の既知の問題およびその他の問題、および適切な回避方法がある場合はそれらも一覧表示します。

2.1 パフォーマンスの更新

Oracle Linux 6 および Oracle Solaris 11 システム上の多数のセッション (サーバーあたりの同時セッション数が 80 を超える) のスケーラビリティに影響を及ぼす既知の問題がいくつかあります。これらの制限は、デフォルト構成およびシステムの DBus プロセスと gdm プロセスで構成されている少ないファイル記述子リソース容量の結果です。次の回避方法を適用してスケーラビリティを拡張できます。

Oracle Linux 6

1. Sun Ray サーバーのスーパーユーザーになります。
2. 次の行を含む `/etc/dbus-1/system-local.conf` ファイルを作成することで、デフォルトの DBus リソース制限を変更します。

```
<!DOCTYPE busconfig PUBLIC "-//freedesktop//DTD D-Bus Bus Configuration 1.0//EN"
"http://www.freedesktop.org/standards/dbus/1.0/busconfig.dtd">
<busconfig>
  <!-- default for this is 2048 -->
  <limit name="max_completed_connections">32768</limit>
  <!-- default for this is 256 -->
  <limit name="max_connections_per_user">4096</limit>
</busconfig>
```

3. `ulimit` コマンドを `/etc/X11/prefdm` ファイルに追加することで、システムの GDM デーモンファイル記述子リソース容量を変更します。

行 `PATH=...` のあとに、次の行を追加します。

```
ulimit -n 16384
```

4. 変更を有効にするには、システムをリブートします。

Oracle Solaris 11

1. Sun Ray サーバーのスーパーユーザーになります。
2. 次の行を含む `/etc/dbus-1/system-local.conf` ファイルを作成することで、デフォルトの DBus リソース制限を変更します。

```
<!DOCTYPE busconfig PUBLIC "-//freedesktop//DTD D-Bus Bus Configuration 1.0//EN"
"http://www.freedesktop.org/standards/dbus/1.0/busconfig.dtd">
<busconfig>
  <!-- default for this is 2048 -->
  <limit name="max_completed_connections">32768</limit>
  <!-- default for this is 256 -->
  <limit name="max_connections_per_user">4096</limit>
</busconfig>
```

3. `plimit` コマンドを `/etc/init.d/utsyscfg` ファイルに追加することで、システムの DBus デーモンファイル記述子リソース容量を変更します。

行 `start` (行 320) のあとに、次の行を追加します。

```
if [ -x /bin/plimit ]; then
  DPID=$(pgrep -f "dbus-daemon --system")
  if [ -n "$DPID" ]; then
    plimit -n 16384 $DPID
  fi
fi
```

4. `/lib/svc/method/svc-gdm` ファイル内の行を置き換えることで、システムの `gdm` プロセスが Solaris Extended File Facility を使用するように強制します。

行 `/usr/sbin/gdm $arg &` を次の 2 行に置き換えます。

```
ulimit -n 16384
LD_PRELOAD_32=/usr/lib/extendedFILE.so.1 /usr/sbin/gdm $arg &
```

5. 変更を有効にするには、システムをリブートします。

2.2 欠落したセッションの防止 (Oracle Linux)

デフォルトでは、`/etc/cron.daily/tmpwatch` ファイルは、既存のユーザーセッションが引き続き機能するために必要なディレクトリおよびファイルを削除することがあります。この問題により、セッション待機中 (26) のアイコンが表示される場合があります。

この問題を修正するには、必要なセッションディレクトリおよびファイルが削除されないように、`tmpwatch` ファイルを無効にするか、`tmpwatch` ファイルを更新します。`tmpwatch` ファイルを無効にする場合、`/tmp` ディレクトリ内の内容をパーズするためには別の方法が必要になる可能性があります。

どちらの解決方法でも、Sun Ray サーバーのスーパーユーザーになる必要があります。

tmpwatch ファイルの無効化

```
# chmod a-x /etc/cron.daily/tmpwatch
```

tmpwatch ファイルの更新

`/etc/cron.daily/tmpwatch` ファイルを編集します。`s` フラグを `flags` 変数に追加して、`tmpwatch` コマンドの 3 つの新しいオプションを追加します (どちらの更新も太字で強調表示されています)。

```
#!/bin/sh
flags=-umcs # Added s for SUNWut
/usr/sbin/tmpwatch "$flags" -x /tmp/.X11-unix -x /tmp/.XIM-unix \
-x /tmp/.font-unix -x /tmp/.ICE-unix -x /tmp/.Test-unix \
-x /tmp/SUNWut -X /tmp/orbit-* -X /tmp/pulse-* \ # Added options for SUNWut
-X /tmp/hsperfdata_* 10d /tmp
/usr/sbin/tmpwatch "$flags" 30d /var/tmp
for d in /var/{cache/man,catman}/{cat?,X11R6/cat?,local/cat?}; do
  if [ -d "$d" ]; then
    /usr/sbin/tmpwatch "$flags" -f 30d "$d"
  fi
done
```

2.3 IPsec でのパフォーマンス

Sun Ray クライアントで IPsec を有効にした場合、サーバーとクライアントの両方での IPsec の処理要件の増加により、標準の Sun Ray Software パフォーマンスは影響を受ける可能性があります。パフォーマンスへの影響の原因としては、サーバーハードウェア、サーバーハードウェアでの暗号化の高速化、Sun Ray クライアントの選択、ユーザーアクティビティーなど、多数の要因が考えられます。通常、マルチメディアのパフォーマンスが影響を受けます。これには、Adobe Flash コンテンツの再生や Windows Media Player を使用したビデオの再生が含まれます。

詳細については、管理ガイドの [IPsec Support](#) を参照してください。

2.4 インストールの問題

2.4.1 アップグレード後に DHCP サービスが再起動されない

`utpresave` スクリプトが Sun Ray Software のアップグレード中に `dhcpcd` サービスを停止し、アップグレードの終了後に Sun Ray サーバーでこのサービスが再起動されません。この問題は、DHCP サービスを提供する Sun Ray サーバーにのみ影響します。

回避方法 アップグレード後に Sun Ray サーバーで DHCP サービスを手動で起動します。

参照: CR 16050120

2.4.2 アップグレード中に `utpreserve` が `utwc` (Windows Connector) グループを復元しない

(オペレーティングシステムのアップグレードのため) `utpreserve` スクリプトを使用してアップグレード中に Sun Ray サーバー構成をバックアップおよび復元する場合、`utwc` グループがバックアップおよび復元されません。`utsetup` スクリプトは、アップグレードを完了するために、サーバー上の `utwc` グループを必要とします。利用できない場合、次のエラーが表示されます。**無効なグループ名: utwc。既存のグループ名を指定してください。**

回避方法: `utsetup` スクリプトを使用して Sun Ray サーバーをアップグレードする前に、Sun Ray サーバーで `utwc` グループを作成する必要があります。Oracle Linux でのコマンド例を次に示します。

```
# groupadd utwc
```

参照: CR 14763147

2.5 管理 GUI の問題

2.5.1 自己登録 GUI

間違ったユーザー名またはパスワードが入力された場合、自己登録 GUI がテキストの入力を拒否します。

回避方法: 「終了」ボタンを押して自己登録 GUI を再起動します。

自己登録 GUI を使用すると Java コアダンプが出力される場合がありますが、登録は引き続き予期したとおりに機能し、ほかの悪影響が見られません。ただし、`coreadm` がコアダンプに一意の名前を付けるように構成されている場合は、ディスクスペースの使用率がモニターされるはずですが、

参照: CR 12195258、12196361

2.5.2 複数認証 (Oracle Solaris)

ホットキー操作 (デフォルトは Shift-Pause) を使用してセッションが切断されるとときに、複数認証を求められる場合があります。

参照: CR 12249130

2.6 セッションの問題

2.6.1 IPv6 を使用する際にセッションアクセスが非常に遅い (Oracle Solaris 11)

Solaris 11 を実行している Sun Ray サーバーを IPv6 を有効にして使用する場合、Sun Ray セッションが非常に遅くなります。

回避方法: デスクトップクライアントで、MTU を 1280 に下げます。

参照: CR 14774245

2.7 ログインの問題

2.7.1 タブレットの回転後、ログインリータが中央に配置されない

タブレットで実行されている Oracle Virtual Desktop Client で動的なセッションサイズ変更が有効になっている場合、タブレット回転後に GNOME ログインリータまたは NSCM ログインリータが中央に配置されません。

参照: CR 15872787 および 15872764

2.7.2 「クイックログイン」メニューが NSCM ログインリータで動作しない (Oracle Solaris 11)

Oracle Solaris 11 を使用する場合、NSCM ログインリータで「オプション」>「クイックログイン」メニューが動作しません。

参照: CR 14703949

2.7.3 dtlogin 画面でリストからホストを選択するオプションからリモートホスト名を選択すると、Sun Ray クライアントが 26D でハングアップする

dtlogin ウィンドウからリモートシステムにログインしようとするときに、「オプション」->「リモートログイン」->「リストからホストを選択」オプションからリモートホスト名を選択すると、クライアントが 26D でハングアップします。

回避方法: リモートホスト名をリストから選択する代わりに、「エラーホスト名」オプションを使用してリモートホスト名を入力します。

参照: CR 12310031

2.8 画面の問題

2.8.1 モニターが DVI-2 に接続されているときに、Sun Ray セッションがデフォルト表示である 640 x 480 を使用する

Sun Ray 2FS クライアントまたは Sun Ray 3 Plus クライアントでモニターが DVI-2 に接続されていて、DVI-1 に接続されているモニターがない場合、Sun Ray セッションはデフォルト表示である 640 x 480 を使用します。

回避方法: Sun Ray 2FS クライアントまたは Sun Ray 3 Plus クライアントにモニターを 1 台だけ接続する場合は、DVI-1 ポートに接続します。

参照: CR 16310166

2.8.2 動的なセッションサイズ変更が有効になっているときにホットデスク後 GNOME がクラッシュする可能性がある (Oracle Linux 5)

動的なセッションサイズ変更が有効になっているときに Oracle Linux 5 デスクトップをホットデスクすると、GNOME がクラッシュする場合があります。GNOME がクラッシュした場合、すべてのウィンドウが終了し、新しいセッションが作成されます。この問題はキオスクモード使用時のデスクトップサイズ変更には影響しません。

回避方法: 動的なセッションサイズ変更を無効にします。

参照: CR 13424198

2.8.3 Sun Ray 3 および Sun Ray 3i クライアントで構成 GUI を表示しているときに画面がちらつく

Sun Ray 3 または Sun Ray 3i クライアントが最大解像度 (1920x1200 または 1920x1080) のときに STOP-M で構成 GUI を表示すると、画面がちらつく場合があります。

参照: CR 13702574

2.8.4 2 つ目の Oracle Linux セッションで画面がロックしない

2 つの Oracle Linux セッションを作成するユーザーは、2 つ目のセッションの画面ロックを作成できません。Sun Ray Software が画面をロックする必要がある場合、2 つ目のセッションには `xlock` を使用します。ユーザーがメニューから画面をロックしようとしても何も起こりません。

回避方法: 2 つ目のセッションには `screensaver` デーモンを手動で起動することで、画面ロックが有効になり、Sun Ray Software が `xlock` を使用しなくなります。

```
# /usr/X11R6/bin/xscreensaver -nosplash &
```

2.9 マルチメディアの問題

2.9.1 H.264 ビデオを再生中の Windows Media Player を閉じると、Windows セッションがクラッシュする場合があります (Oracle Solaris)

この問題は、Sun Ray 2 シリーズクライアントまたは Sun Ray 3 シリーズクライアント、Windows Server 2003 R2、および Oracle Solaris を実行している Sun Ray サーバーに限定されます。Sun Ray 2 シリーズクライアントでは、Windows Media Player を閉じるときにクライアントがリセットされる場合もあります。

回避方法: Windows Media Player を閉じる前にビデオの再生を停止します。この回避方法は初回試行においてのみ機能する場合があります。

参照: CR 14309965

2.9.2 Windows Media Player でビデオを再生しているときにデスクトップをリフレッシュすると、Windows デスクトップ背景が黒くなる場合があります

この問題は、Sun Ray 3 Plus クライアントでビデオ高速化を使用しているときに発生することがあります。

回避方法: デスクトップで右クリックして「リフレッシュ」を選択することで、もう一度デスクトップをリフレッシュします。

参照: CR 13081974

2.9.3 ビデオサイズを小さくすると、以前に設定した大きなビデオサイズのイメージ内でビデオ再生が開始される

参照: CR 12300252

2.9.4 RealPlayer レンダリング (Oracle Solaris)

RealPlayer で XVideo を使用してビデオクリップを再生しているときに Sun Ray クライアントをリセット (Ctrl+Power) すると、RealPlayer アプリケーションが長時間レンダリングに失敗する場合があります。

回避方法: 「一時停止」のあとで「再生」をクリックして、ビデオクリップの再生を再開します。

参照: CR 12249128

2.9.5 2 つの画面から 1 つの画面にホットデスクするときのビデオイメージの問題

ユーザーが 2 画面の Sun Ray 2FS クライアントから Sun Ray 2 または Sun Ray 270 クライアントに Sun Ray セッションをホットデスクするとき、`uttsc` またはビデオウィンドウがデスクトップの左端境界近くでない状態でビデオを拡大すると、ビデオイメージの問題が発生することがあります。

回避方法:

- ビデオをデスクトップ左端境界近くに維持します。
- ビデオイメージサイズを 100 % に設定するアプリケーションメニューまたはコマンドキーを使用することで、サイズを変更しないようにします。

参照: CR 12248506

2.9.6 XVideo を使用した縮小

このリリースでは、XVideo を使用したビデオプレイバックは縮小をサポートしていません。

参照: CR 12247940

2.9.7 VC-1 (WMV9) ビデオを Windows Media Player ではじめて再生しようとする と、再生されない場合がある

回避方法: ビデオクリップを再起動します。

参照: CR 12237505

2.9.8 RealPlayer で最大化した XVideo のプレイバックが遅い

ビデオを拡大サイズ (RealPlayer 最大化モード) で再生すると、ユーザーの X セッションの (特にメニューリクエストへの) 応答が非常に遅くなります。

参照: CR 12220430

2.10 キーボードの問題

2.10.1 `xset led` が有効になっているとき、キーボードのプラス (「+」) 記号が動作しない (Oracle Solaris 11)

回避方法 次のコマンドを使用して、キーボード上の LED を無効にします。

```
xset -led
```

参照: CR 16191463

2.10.2 NumLock がオンになっているとき、Shift-Props および Shift-Pause ホットキーが動作しない (Oracle Solaris 11 および Oracle Linux 6)

Oracle Solaris 11 および Oracle Linux 6 では、NumLock がオンになっているとき、Shift-Props ホットキーによって `utsettings` GUI が開きません。Oracle Solaris 11 では、NumLock がオンになっているとき、Shift-Pause ホットキーによって Sun Ray クライアントが切り離されません。

回避方法: NumLock をオフにするか、コマンド行から `utsettings` GUI を起動します。

```
/opt/SUNWut/bin/utsettings
```

参照: CR 13645049

2.10.3 XKB (Oracle Linux)

XKB 機能を有効にしたあとに次のメッセージが表示されますが、機能は予期したとおりに動作します。

```
Error activating XKB configuration.  
Probably internal X server problem.
```

2.10.4 テンキーマッピング (Oracle Linux)

テンキーマッピングは、`utsettings`、`utmhconfig`、登録 GUI などの Java ベース Sun Ray Software コマンドでは正しく機能しません。

回避方法: 次のように、環境変数 `_AWT_USE_TYPE4_PATCH` を `false` に設定します。


```
# setenv _AWT_USE_TYPE4_PATCH false
```

2.10.5 キーボードの配列 (Oracle Linux)

`setxkbmap` は、Sun Ray クライアントでのキーボードの配列を設定するために使用できません。

2.11 キオスクの問題

2.11.1 キオスクアプリケーションタイプを正しく設定する

一部のキオスクセッションタイプでは追加アプリケーションを起動できます。管理 GUI 内で、実行可能ファイルへのパスを入力するか、アプリケーション記述子 (アプリケーションのさまざまなプロパティを一覧表示するファイル) へのパスを指定することで、新しいキオスクアプリケーションを指定できます。

管理 GUI はタイプ (実行可能ファイルまたは記述子) を自動的に判別できないため、新しいアプリケーションを追加するときは管理 GUI でタイプを正しく指定する必要があります。

間違ったタイプを指定すると、キオスクセッションが正しく起動できず、影響されるクライアントがハングアップします (通常は 26D エラー)。

回避方法: 管理 GUI で指定済みタイプを確認し、必要に応じて設定を修正します。

参照: CR 12195273

2.12 外部ストレージの問題

2.12.1 Memorex TravelDrive 1G バイト が Sun Ray 2FS クライアント上で動作しない

Memorex TravelDrive 1G バイトフラッシュディスクは、Sun Ray 2FS クライアントに直接接続されると動作しません。

回避方法: フラッシュディスクを Oracle ベースキーボードの USB ポートなどの外部ハブに接続します。

参照: CR 12271355、12256277

2.13 Oracle Solaris Trusted Extensions の問題

2.13.1 admin_high/admin_low 許可のないユーザーがログインに失敗する (Oracle Solaris 11)

ログインしようとする、「アクセス権が拒否されました」エラーメッセージが表示されます。

回避方法: `/etc/pam.d/gdm`、`/etc/pam.d/utnsclogin` および `/etc/pam.d/uthotdesk` ファイルから次の行を削除します。

```
account required pam_tsol_account.so.1 allow_unlabeled
```

参照: CR 16416236

2.13.2 Sun Ray 相互接続構成

`/etc/security/tsol/tnrhdb` で、次のエントリを利用可能にするようにしてください。

```
0.0.0.0/32:admin_low
```

参照: CR 12247254

2.13.3 マルチヘッド役割引き受け

マルチヘッド Trusted JDS セッションでは、[utmhscreen](#) が削除されるまで役割引き受けが機能しません。

参照: CR 12240048

2.13.4 フラッシュディスクの割り当て

UFS ファイルシステムのフラッシュディスクを 2 回目に割り当てることは機能しません。

回避方法: デバイスをホットプラグします。

参照: CR 12202377

2.13.5 複数のスライス/パーティション

Sun Ray 外部ストレージは、Trusted Extensions デバイス割り当てフレームワークが使用するスライスまたはパーティションを 1 つだけ処理します。

参照: CR 12195719

2.13.6 [xscreensaver](#) リンク (Oracle Solaris 10)

[xscreensaver](#) が正しく機能できるように、次のリンクが作成されていることを確認してください。

```
# ln -s /usr/openwin/bin/xscreensaver /usr/bin/xscreensaver
# ln -s /usr/openwin/bin/xscreensaver-command /usr/bin/xscreensaver-command
# ln -s /usr/openwin/bin/xscreensaver-demo /usr/bin/xscreensaver-demo
```

2.14 ローカリゼーションの問題

2.14.1 ポルトガル語のロケールがインストールされない (Oracle Solaris 10 および Oracle Linux)

Oracle Solaris 10 および Oracle Linux プラットフォームで、Sun Ray Software インストールプログラムが [SUNWpkio](#) (ポルトガル語のローカライズ) パッケージをインストールしません。

回避方法: メディアパックイメージで提供されているパッケージを手動でインストールします。

- Solaris 10 x86 - [Components/10-SRSS/Content/Kiosk_Mode_4.5/Solaris_10+/i386/Packages/SUNWpkio](#)
- Solaris 10 SPARC - [Components/10-SRSS/Content/Kiosk_Mode_4.5/Solaris_10+/sparc/Packages/SUNWpkio](#)
- Oracle Linux - [Components/10-SRSS/Content/Kiosk_Mode_4.5/Linux/Packages/SUNWpkio-4.5-*.rpm](#)

参照: CR 16034057

2.14.2 nl_NL オランダ語ロケールサポートがデフォルトで提供されない (Oracle Solaris 11)

ログイン GUI および [utselect](#) コマンドなど、一部の Sun Ray Software GUI アプリケーションはロケールサポートを必要とします。nl_NL オランダ語ロケールサポートが Oracle Solaris 11 でデフォルトでインストールされず、必要に応じてインストールする必要があります。

回避方法: 次のコマンドを使用して、Sun Ray サーバーで nl_NL オランダ語ロケールをインストールします。

```
# pkg change-facet 'facet.locale.nl=true' 'facet.locale.nl_NL=true'
```

参照: CR 14703414

2.14.3 utselect GUI でローカライズされたテキストが正しく表示されない (Oracle Solaris 11)

Oracle Solaris 11 で一部の CDE ベースのアプリケーションによって使用される `sys.resources` をロードするためのメカニズムがありません。

回避方法: アプリケーションを開始する前に、適切なロケールの `sys.resources` ファイルをロードします。

```
% xrdp -merge /usr/dt/config/locale/sys.resources
```

参照: CR 14703466

2.14.4 utselect および utwall (Oracle Linux)

簡体字中国語、繁体字中国語、および韓国語ロケールでは、Oracle Linux ディストリビューションで `utselect` および `utwall` が正しく機能しません。

回避方法: 該当するロケールサブディレクトリから `utselect` および `utwall` カタログファイルを削除します。これにより、`utselect` および `utwall` が英語で起動します。

簡体字中国語ロケールの場合:

```
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/zh_CN/LC_MESSAGES/utselect.mo
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/zh_CN/LC_MESSAGES/utwall.mo
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/zh_CN.utf8/LC_MESSAGES/utselect.mo
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/zh_CN.utf8/LC_MESSAGES/utwall.mo
```

繁体字中国語ロケールの場合:

```
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/zh_TW/LC_MESSAGES/utselect.mo
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/zh_TW/LC_MESSAGES/utwall.mo
```

韓国語ロケールの場合:

```
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/ko_KR.utf8/LC_MESSAGES/utselect.mo
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/ko_KR.utf8/LC_MESSAGES/utwall.mo
```

2.15 VMware View Connector の問題

2.15.1 ネットワークレベル認証 (NLA) を使用して Windows 7 を起動すると VDM ログイン画面で認証に失敗する

Sun Ray Software は Windows ネットワークレベル認証 (NLA) をサポートできますが、VMware View は Windows ベースでない View クライアントで NLA をサポートしていません。VMware View では標準の RDP 認証を使用する必要があります。

回避方法: RDP 認証を構成するには、ゲスト OS で RDP 認証を有効にし、Sun Ray Software 管理 GUI 内の「キオスクモード」タブの `utsc` 引数フィールドに `-N off` オプションを追加してください。

2.16 スマートカードの問題

2.16.1 Sun Ray Operating Software のインストール時にスマートカード LED が約 40 秒間点滅する

Sun Ray 3 シリーズクライアントに Sun Ray Operating Software をインストールするときは、スマートカードコントローラファームウェアの更新中にスマートカード LED が約 40 秒間点滅します。

これは正常です。

2.17 Windows Connector の問題

2.17.1 ホットデスク中に Windows Server 2003 R2 デスクトップが自動的にサイズ変更されるとセグメント例外が発生する

この問題は、`uttsc` コマンドの `-f` オプションを使用しているときに発生する場合があります。

回避方法: 次の手順を使用します。

1. 次のホットフィックスを Windows Server 2003 R2 システムにインストールします。

<http://support.microsoft.com/kb/942610>

2. `regedit` コマンドを使用して、`AllowHigherColorDepth` レジストリキーが 1 に設定されていることを確認します。0 に設定されている場合は、1 に変更します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\TerminalServer\AllowHigherColorDepth
```



注意

レジストリキーを変更する前に、Windows システムのレジストリを必ずバックアップしてください。

参照: CR 13402062

2.17.2 USB リダイレクション機能のトラブルシューティングに使用される `uttrace` コマンドが機能しない

参照: CR 13086346

2.17.3 Windows 7 および Windows Server 2008 R2 システムへの接続時に、Windows Connector が Windows 開始画面でハングアップする場合がある

このハングアップは、サーバーと Windows Connector との間で発生するマルチモニター列挙プロセスが原因で、Windows サーバーが Windows Connector にモニター配置データを送信しないことによります。

回避方法: `uttsc -X off` コマンドを使用してマルチモニター列挙プロセスを無効にするか、デスクトップのカスタムテキストサイズ (DPI) を 100% に設定します。

参照: CR 12304470

2.17.4 Windows 7 でテーマが有効になっているときに色勾配が正しく表示されない

`uttsc` コマンドの `-E theming` オプションでテーマが有効になっているときに、メニューの背景色などの色勾配が正しく表示されません。色勾配が滑らかな変化ではなく細長い帯状に見えます。

回避方法: `-E theming` オプションでテーマを有効にしないでください。

参照: CR 12301115

2.17.5 XRender が無効のときに Windows Server 2008 R2 セッションで黒いマウスカーソルが表示される

クライアント上で Xrender 拡張機能が無効になっている場合、Windows Server 2008 R2 セッションで白いマウスカーソルの代わりに黒いマウスカーソルが表示されます。

回避方法: 管理ガイドの「[XRender を有効または無効にする方法](#)」を参照してください。

参照: CR 12293338

2.17.6 スキャナボタンを使用してもスキャンが動作しない

一部のスキャナで、スキャナのボタンによりスキャンの開始が機能しません。ソフトウェアからスキャンを開始することでドキュメントをスキャンすることはできます。

参照: CR 12279842

2.17.7 フラッシュディスクの挿入後にエクスプローラウィンドウが自動的に起動しない

フラッシュディスクを挿入したあとにエクスプローラウィンドウ (ディスク内容) が自動的に起動しません。プログラムは手動で起動する必要があります。これは、コンソールセッションの Windows 動作とは異なる動作です。

参照: CR 12270188

2.17.8 スマートカードが Windows ターミナルサーバーでユーザーを認証できない

スマートカードを使用して Windows ターミナルサーバーでユーザーを認証するには、Base Smart Card Cryptographic Service Provider パッケージ更新を <http://support.microsoft.com/kb/909520/en-us> からインストールしてください。

この更新は Sun Ray 環境での画面ロック解除動作を改善します。

2.17.9 既知の Oracle Linux 制限が原因で、Windows から PCFS フォーマットリムーバブルメディアへの大きなファイルのコピーが機能しない

回避方法: UFS や ext3 など、PCFS 以外のファイルシステムを使用してください。

第3章 フィードバックとサポート

この章では、Sun Ray Software 製品のフィードバックを提供する方法とサポートへの連絡方法について説明します。

問題を報告してフィードバックを提供する

フィードバックを提供したり、一般的な質問を送ったりするには、Oracle VDI と Sun Ray ソフトウェアに関するコミュニティフォーラムの[仮想デスクトップ基盤と Sun Ray クライアントに関する全般的なディスカッション](#)に投稿してください。フォーラムはコミュニティによってモニターされており、Oracle VDI と Sun Ray ソフトウェアに関するコミュニティフォーラムに投稿しても Oracle から回答が得られる保証はありません。問題を報告する必要があり、かつ Oracle Premier Support Agreement をお持ちの場合は、Oracle Support (<https://support.oracle.com>) でケースを登録してください。

問題を報告する場合は、次の情報 (該当するもの) をお送りください。

- 問題の説明。問題発生時の状況や操作への影響を含みます。
- マシンタイプ、オペレーティングシステムのバージョン、ブラウザの種類とバージョン、ロケール、および製品のバージョン、適用したパッチや、この問題に影響している可能性のあるほかのソフトウェアを含みます。
- 使用した方法の詳細な手順 (問題を再現するため)。
- エラーログまたはコアダンプ。

Oracle スペシャリストサポートに連絡する

Oracle Customer Support Identifier (CSI) をお持ちの場合は、最初に <https://support.oracle.com> の My Oracle Support を使用して問題の解決を試みてください。Oracle Premier Support CSI は、カスタマイズサポート、サードパーティーソフトウェアサポート、またはサードパーティーハードウェアのサポートに対応していません。

問題を解決できない場合は、Oracle スペシャリストサポートチームに問題を相談し、製品の問題の切り分け/修正に関する技術的な支援を受けます。対応するサポート技術者には、まず次の情報が必要です。

- Oracle Customer Support Identifier。
- 問い合わせしている製品。

Sun Ray Operating Software の場合は、製品の Sun Ray HW およびコンポーネントのファームウェアを伝えてください。

- 支援を必要とする問題の簡単な説明。

CSI が不明な場合は、該当する国の適切なサービスセンターを見つけてから (<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>)、Oracle サービスに連絡して非技術サービス要求 (SR) を開いて CSI を発行してもらってください。CSI がわかったら、My Oracle Support でケースを登録する手続きに進むことができます。

利用可能な Sun Ray 製品のサポートは次のとおりです。

- Sun Ray Software (SW) のサポートが必要な場合は、Sun Ray Software をアセットとする Oracle Premier Support for Software (SPS) 契約が必要です。
- Sun Ray ハードウェア (HW) サポートが必要な場合は、Sun Ray クライアント、キーボード、マウス、およびモニターの部品交換のための Hardware Warranty (HWW) または Premier Support for Systems (PSS) 契約が必要です。
- Sun Ray Operating Software サポートが必要な場合は、Sun Ray をアセットとする Premier Support for Systems (PSS) または Premier Support for Operating Systems (PSoS) 契約が必要です。

